館報
おおくま

おもな内容

2面……県立大野病院の沿革
3面……郡総合体育大会成績
4面……スポーツ少年海外派遣報告
5面……作文・水泳大会成績
6面……民話・学級だより
7面・8面……みんなの広場

発行編集　大熊町公民館
印刷所　新栄社写真美術印刷

（九月十五日敬老会で披露する長者原じゃんがら念仏太鼓）

郷土芸能

昔から育てられてきた数々の民俗芸能文化財は、社会情勢の進展に伴いややもすれば忘れられつつあります。

いま、国においては、民俗花能文化財の保存と伝承に力を傾注しており、大熊町にも現在、熊川推児獅子舞、長者原じゃんがら念仏太鼓、野上諏訪神楽等の価値ある民俗芸能文化財が残されています。

これらは、貴重な生活体験の中から生成されて来たものであり今後の新しい生活文化の創造と社会生活の進展に役立つものと思われます。

是非私達の手で、この大熊町の郷土芸能を守り、子孫に伝えたいものです。

地域医療の殿堂 県立大野病院

県立大野病院全景

寒村という言葉がピッタリする村でした。大野駅前の家並をでると、デコボコ道の両側に田畑がつづき、茅葺の農家が点在し、阿武隈山系に連なる山々の稜線が、青空にくっきりと浮ぶこの里は、文明なんていうものからおよそ取残された存在でしかないと思われる静かなたたずまいでした。

しかし、そこに住む人々の心に内蔵されていた飛躍への悲願は戦後の混乱が漸く平静を取戻しかけた昭和二十六年、求めて県立総合病院の誘致となったのです。

当時県会議員であった木幡一清氏や、村長斉藤正氏を始め議員の方々のたゆまざる努力が効を奏し、大半の村有財産を処分して、荷車に病人を乗せ、不安な表情をあらわにして病院を探し歩く不便を解消したのです。

開院と時を同じくして、郡山と請戸を結ぶ県南バスも運行され、正にこの地の夜明けであったのです。

人変り、時移り、そして二十五年、昔日の面影を偲ぶ片鱗もなきまでに施設と環境は変容しました

しかし、沿革に見られるような幾多変遷の中に、この存立のために、そして地域住民のために営々として職務を遂行された院長先生始め、医師、看護婦、職員の方々のご尽力に感謝せずにはいられません。あの人も、あの方はと、一人一人を想起し、懐しさがこみあげて来ます。

特に初代院長として二十余年、地域の医療にその半生を捧げられ、大熊町名誉町民となられた猪狩正雄先生は、病院育ての親と地方の人々から親まれ、尊敬された人であります。

時代の推移と共に進行する医療技術革新が、地域住民の健康管理の中にも生き続けてゆくことと、医療業務、運営に携わる皆様方に、大いなる期待を寄せ、安心して生業に精励できるようにと念願しております。

大野病院の沿革

昭26. 12. 5	開　院 内科・外科・産婦人科　30床
昭27. 9	結核療養所設置 増床 160床
昭29. 6	福島県教員保養所併設 増床58床
昭30. 3	２町１ヵ村組合立伝染病棟併設 18床（昭44.6楢葉町 45.11広野町加入）
昭30. 4	准看養成所併設 （定員20名学級１）
昭33. 3	准看養成所中止
昭33. 4	結核養護学級を教員保養所内に開設 （専任教員２名・定員40名） 減床６床
昭40. 9	整形外科増設
昭42. 3	教員保養所廃止・大野病院に全面移管
昭44. 6	整形外科休診
昭46. 3	全面改築のため病棟他１部解体 改築起工
昭47. 5	建物工事完成
昭47. 6	全面移転・診療開始

現　在

○診療科目　**内科・外科・産婦人科**

○病床数　165床
一般96・結核54・伝染15

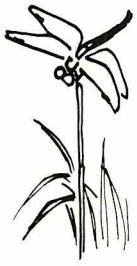
○建　物　本館　鉄筋コンクリート２階建
延約4,540㎡
看護婦宿舎　コンクリートブロック２階建
延約 348㎡
併設隔離病舎　鉄筋コンクリート建約 371㎡

外科診療を再開（大野病院）

昭和二十六年にこの地方の皆様の要望で開設された県立大野病院は、その後幾多の変遷をたどり、昭和四十七年には、老朽化した建物設備を一新して現在に至りました。

この三月には、永い間医師不在のため休診しておりました外科も再開され、内科、外科、産婦人科の診療を通じて、皆様の健康のために微力をつくしておりますが、将来その内容を更に充実するために、その方向を県立病院基本問題調査会が調査審議しております。

なお皆様からのご意見、ご批判などを役場を通じ、または直接にご遠慮なくお寄せ下さるようお願い致します。



女子バレーほか二種目に優勝

郡総合大育大会　総合で準優勝

双葉郡内町村民の融和とスポーツ精神の高揚を図ることをねらいとした第十四回双葉郡総合体育大会は、秋晴れに恵まれた九月二十六日広野町と楢葉町においてにぎやかに開催された。

大熊町選手団百二十余名は、昨年度総合優勝の面目と上位入賞の期待をかけ先頭で堂々の入場行進を行った。

100mで1位になった品田君の力走

今大会よりバスケットボールも加わり十二種目に熱戦を展開し、女子バレーボール、剣道、男子卓球ともに優勝を成し遂げた。

また総合では惜しくも準優勝にとどまったが圧倒的な強みをみせ体育大熊の名を残し盛会裡に終了した。なお上位成績は次の通り。

◎陸上競技（男子総合二位）

○小野田正一

百㍍（三位）　志賀秀豊

二百㍍（三位）　西方英樹

四百㍍（一位）　品田健也

八百㍍継走（二位）　志賀秀豊　押田吉弘　西方英樹　品田健也

五千㍍（一位）　志村充男

走高跳（一位）　品田健也

走幅跳（三位）　押田吉弘

百㍍女子（二位）　田中千恵子

四百㍍継走（三位）　竹岡良子　中野春美　渡辺美恵子　田中千恵子

◎女子バレーボール（一位）

○佐山輝子　佐藤ミヨ子　遠藤愛子　松永久子　赤井照子　山田ヒロ子　志賀英子　石田たか子　下宮和枝　青木ひろ子

◎相撲（二位）

○池田光雄　木幡仁　武内政幸　加藤直人　渡辺利明

◎卓球男子（一位）

○伊藤昌夫　富永信男　山口道雄　新藤健次

◎剣道（一位）

○井戸川清隆　田沢憲郎　坂上信之　中山竜太　丸田忠幸　小林敏男

◎壮年ソフトボール（三位）

○五十嵐孝次　畠山久夫　赤井光清　富永昭男　山下左内　菅野良久　渡部俊男　村井洲湖　横山久雄　中野精蔵

◎庭球男子（三位）

○大沼正吉　和田登　泉田隆一　森陽三　南沢光人　鈴木章吾　木村光政　河津賢澄

◎バスケットボール（二位）

○西村正英　倉田利次　浅野孝　猪狩静男　志賀正典　今泉明博　吉田広　渡辺寛治　橋本徳一　金丸正洋　平野富夫　千徳平道　笹尾秀実　中島孝一

（○印は監督）

楽しかった体育祭

優勝は熊川区

昭和五十一年度大熊町民体育祭は、九月十二日旧大野中学校庭において開催し、八千町民の親善と各部落の融和を深め盛会裡に終了した。

今年度は長雨の影響を受け延期するなど、当日も悪コンディションではあったが会場には各部落から選手、役員始めたくさんの観衆がつめかけ各種競技を競い初秋に歓声をあげ楽しい一日を過ごした。

特に小学生の鼓笛隊パレードや保育所、幼稚園児の遊戯には観衆も「可愛いい」の連発であった。

日の丸を先頭に入場する役員及び選手

綱引きでハッスルする選手

又、体育祭のハイライトでもある部落対抗リレーでは、抜きつ、抜かれつの珍プレーも続出するなど和やいだ雰囲気が満ちあふれていた。なお成績は次のとおりです。

優勝　熊川　五四点
準優勝　町区　五〇点
三位　駅前　四八点
四位　野上　四六点
五位　下野上　三九点
六位　熊区　三四点
七位　小入野　三二点
八位　夫沢　三〇点
九位　大川原　三〇点

子どもと環境

熊町幼稚園　愛川まり子

—ぼくも、わたしも運転手
幼稚園前庭にて—

「先生、おはようございます」スクールバスを降りると同時に元気な声が聞こえてきます。その元気な声・声…が私たちを「今日も元気にがんばらなくては：」と力強い精神に導びいてくれます。

私たちは常に子どもたちとともに遊び、考え、覚えるそして喜ぶことの大切さを忘れてはならないことを知っています。

今年に入ってから幼稚園の環境が大きく変わりました。大きなブロックの壁が取りのぞかれ、庭が広くなったこと、砂場を園舎の近くに移動したこと、花だんにたくさんの花が咲き並ぶこと、そしてある父兄の方々のご協力で大きな古い自動車が三台も寄付されたこと。この自動車はきれいに色が塗られ、子どもたちの最高の遊び場に早変り。

子どもたちを思うお父さん、お母さん方のご協力で、昨年よりもより一層環境が整備され、のびのびと遊べるようになりました。

幼児教育は、まず周囲の環境からと考えても過言ではないと思います。無理に作られた境遇の中でつめ込み式に教育されても決して良い教育が身につくとは考えられません。幼児に適応した環境の中で、幼児自らが見つけ出した環境の中で過ごすことが望ましい幼児教育の一環であると考えられます。

海外派遣

日独スポーツ少年団交流

池沢洋一

七月二十日から二十五日間の日程で、日本スポーツ少年団派遣団員として西ドイツを訪問して参りましたが、この行事は、日本スポーツ少年団と西ドイツのスポーツユーゲントの団員が相互に両国を訪れて交流を図ろうというもので今年で三年目を迎え既に慣例行事となりつつあります。

私達のグループは、東北、千葉県、広島県の代表者からなり、ノルトライン・ヴェストファーレン州（県にあたる）内の各地をまわりました。ところがこの時期は、ちょうど夏季休暇の最中だそうで州内の青少年のほとんどは旅行避暑に出かけているということで、多くのスポーツ少年団との交流を持つことができなかったのは非常に残念でした。

けれどもプログラムには名所旧跡、工場等の見学がふんだんに盛り込まれ、行く先々で言い知れぬ感動を受け、その歴史の重み、深さを存分に味わうことができました。また、スポーツ施設も数多く見学することができ、その充実ぶりや管理態勢の素晴らしさには目を見張るものがありました。更に感銘を受けたことは、期間中二回にわたって行われた民泊です。

日頃外国人に対して何か特別な感情を抱いている私達日本人にとってプライベートな側面からドイツを見ることができたのは、大変貴重な経験になりました。話し合っているうちにいつしか自分もドイツ人になったような錯覚に陥り、民族や言語の違い、国境の存在というものへの意識が薄れていくのを覚えました。

ドイツでは「ゴールデンプラン」や「第二の道政策」で知られるように社会体育に対する行政上の取り組みが積極的に行われていました。それを受けて国民にもスポーツはかなり定着していましたがその反面、スポーツをやらないという人々も多く見受けられました。その日の暮しをたてるだけでやっとの人々、青少年の非行化に悩む都市部、子どもでさえもお腹をプクンとふくらませて歩いている街角等々、日本と同様の問題を抱えていることも知りました。

わずか一ヵ月にも満たない短い期間でしたが、今後日本で活動していくうえに実に多くのことを教えてくれました。もう一度社会体育の原点にかえって、これからもスポーツ少年団の充実のために努めてゆきたいと思います。

スポーツ少年団県体で活躍

八月二十日福島市において開催された県総合体育大会に大熊町スポーツ少年団は、ソフトボールとバスケットボールに参加した。

ソフトは、会津代表本郷スポーツ少年団を降し県北代表の清明スポーツ少年団に1対0で惜敗した。

バスケットは、いわき代表菊竹スポーツ少年団と対戦惜しくも初陣を飾れなかった。しかしスポーツ少年団の日頃の活動を賞賛したい。なお参加選手は次の通り。

⊙ソフトボール（敬称略）
管野　敦（大小）川岸一之（大小）
秋本昌寿（〃）大内一正（〃）
星野伸也（〃）飯畑光男（〃）
大堂弘克（〃）志賀祐広（〃）
菊地秀文（熊小）鈴木信仁（熊小）
栃本誠喜（〃）

⊙バスケットボール（大熊中）
渡部幸子　渡辺明子
有本弘子　長沼恵美子
吉田寿美枝　鈴木理恵
藤田香代　坂本由佳子
五十崎ひで子
星野明彦（コーチ）

植杉寛治氏体育功労で表彰

永年にわたり社会体育に功績のあった植杉寛治氏（下野上五区）は去る二十六日広野町で開催された郡総合体育大会の席上、社会体育功労者として表彰された。

同氏はこれまで銃剣術の指導者として、地域スポーツの振興に貢献され、その栄誉をたたえられた。

作文

キャンプ

熊小六年　金沢文男

七月二十七・二十八日の二日間スポーツ少年団のキャンプの集いが熊川キャンプ場で行われた。

朝早く目をさまして、うれしくてそわそわした気持ちで、お父さんに車で送ってもらった。

キャンプ場につくと、中学生や小学生があちらこちらにグループをつくって、楽しそうに話しをしていた。受付に行って名ぼをもらったら大野小学校の人たちの名前もたくさんのっていた。

結団式、昼食、レクリェーションと日程がすすみ、楽しみにしていた夕食の準備にとりかかった。

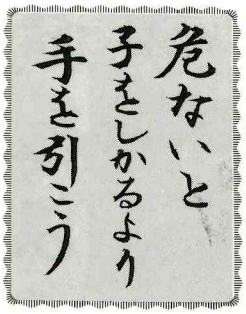
このころになると、同じグループの人たちとだいぶ仲よくなってきた。ぼくは大野小学校の人たち三人のグループだった。みんな協力してかまどをつくり、カレーライスをつくって食べた。

あとかたづけなども二人は皿洗いをして、あとの二人はテントの中のかたづけをした。

キャンプファイヤーでは、各はんが三曲ずつ歌をうたうことになっていたが、まだ練習をしていないはんなどは、調子はずれの声をはりあげてうたうなど、たいへん楽しかった。

次の日はラジオ体操から始まりレクリェーションなどをやって一泊二日のキャンプは終った。

一番楽しかったことは、夕食や朝食を自分たちで作って食べたことと、ふだんつき合うことができない多くの友達と話し合えることができたことだ。このように学校で学びとれないことをたくさん経験できる機会がもっとほしいものだと思った。



楽しかった夏休み

大小六年　大柿政彦

第一学期の終業式の日、先生から「小学校最後の夏休みだから、よい思い出をいっぱい作ってくるように」と言われた。ぼくは、先生のことばのとおり、よい思い出がいっぱいできた楽しい夏休みだったと思う。

部落で熊川に行ったことも楽しかった思い出です。すいか割りではなかなか割れなかった。しかし、ぼくは「きん張しなさい。落ちつけば割れる」と思ったためか、みんなよりじょうずに割れた。

宝探しのときは、すいか割とちがってなかなか見つからなかった「ほんとうに円の中にあるんだろうか」とうたがったくらいだ。

「やめた」と言ってテントに入ろうとしたら、足元にふだがあった。「やっとみつけたぞ」と喜んだ。急いでふだを取りかえに行った。袋の中には食べ物が入っていた。その後波のりをした。男の人より女の人のほうが前へ前へと進んでいく。「あんまり進んでいくと波におそわれるぞ」と言っても耳にもいれない。「ようし、ぼくらも負けねいぞ」と言って楽しんだ。その他に、仙台に遊びに行ったこと、友だちとバトミントンをしたことも楽しかった。

また、休み前に立てた計画で勉強と早ねは守れたが、手伝いと早起きが守れなかったことが反省としてあげられる。

来年は中学生。どんな夏休みになるか楽しみだ。

水泳大会

雑感

大熊中体育部会　鈴木照久

去る二日、広野中において行われた郡内水泳大会で、第三位という成績を収めることができました。

今年度に入ってから、数々の大会が行われ、水泳の他にバトミントンの優勝をはじめ、陸上競技大会でも第三位という好成績を収めることができ、全体を評価すると百点満点中、六十五点ぐらいではないかと思っています。

水泳大会当日は、冷夏中の一日としては割合い好天に恵まれ、午前九時、号砲とともにいっせいに水しぶきがあげられ競技が始まり予選では大熊中の選手がほとんど第一位で通過ということで、十一時頃までは、「大熊中一位予選通過。」「また大熊中一位…」という場内放送が行われ、そのたびに「また大熊中か…」という嘆息が聞こえるほどで、まさに大熊中旋風が吹き抜けるという感じで、意を強くしたわけです。これも選手諸君が夏休みを返上して、毎日毎日練習に励んだ成果であり、選手諸君に心よりの賛辞を贈るとともにご協力をいただいた父兄各位に限りない敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

今年度は第三位という成績で体育部会としては、心から喜べる成績とは申せませんが、勝利の女神はその美しい笑顔をちらりと向けてくれた事は確かのようです。来年こそはその得も言われぬ美しい笑顔をはっきりと正面に向かせるようにしたいと思います。

賞状を手にした生徒たち

郡水泳大会成績

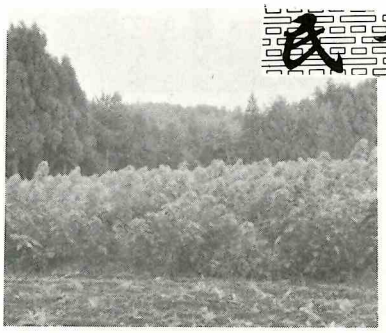
男子

100メートル自由形	2位
50メートル平泳	1位
100メートル平泳	1位・2位
150メートル個人メドレー	1位
50メートルバタフライ	3位
1年リレー	3位
メドレーリレー	3位

女子

25メートル自由形	2位
50メートル自由形	1位
100メートル自由形	1位
25メートルバタフライ	1位
オープンリレー	3位

民話　一反田物語



熊川の浜から小入野を通り、広い南原をよこぎって夫沢川口に出る旧浜街道に沿う南原に、一反田というところがあります。

昔は地名そのままに、原野の中に拓かれた一反歩の水田でしたが今は桑畑が一帯に広がっています。

むかし、

この近くの里に、お萩という気立てのやさしい娘が嫁入りしました。夫婦の仲はいたってむつまじかったのでしたが、姑の「はや」はお萩につらくあたり、暇さえあれば隣近所に茶のみに出かけては嫁のザンゾ話に日を送っていました。

やがて玉のような男の児が生れましたが、姑のはやは孫の面倒をみてくれません。　お萩は不平一つもらさずに、生れたばかりの子どもを背にしては来る日も来る日も田畑に出て働いていました。

やがてお盆がきましたが、はやは、お萩に実家に墓参りに帰るようにとはいってくれず「お萩や、家の一反田が草ばかりだとみんなが笑っているから、今日はお前一人で田の草とりをしておくれ、家の人はお盆で何かと忙しいから」といいつけました。

気の弱い夫は何もいってくれません。「ハイ」と答えたお萩は子どもを背にしてただ一人一反田にでかけて草取りをはじめました。

暑い太陽がジリジリと照りつけ周囲の樹にさえぎられて海風一つふいてきません。

やがて簡単なおにぎりで昼食をとったお萩は、再び無我夢中で仕事にとりかかりました。玉のような汗で全身はびしょぬれとなり、顔は汗が流れ稲の葉にこすられてピリピリと痛みます。

しのびよる夕暮れの気配とともに涼しい風が吹いてきたのに気づいて、もう帰ろうと考えたお萩はたんぼからあがり乳を飲ませようとして大木の根もとに腰をおろし背中の子どもをだきおろしましたところが、子どもは首をだらりとたれたまま息絶えていました。

気ちがいのようになったお萩は子どもの名を呼びながら田の水を顔に吹きつけてゆり動かしましたが息はふきかえしません。

思案にくれたお萩は、息絶えた子どもを再び背にして、とぼとぼと海岸に向って歩き出しましたがやがて四十メートルあまりの断崖からさかまく太平洋に身を投げました。

これからあと一反田附近の水源はかれはてて、二度と水田にはなりませんでした。

（民話苦麻川より）

祝祭日には戸毎に国旗を

最近祝祭日に国旗を掲げる人がちらほら見られるようになってきた。大変にこのましいことだと思う。みなさんのご家庭にはほとんど国旗はあると思う。ただそれが箪子のひきだしの中にこっそりしまわれておったり、押入れの中にまるめてしまわれていたりするものが多いではないでしょうか。もっと国旗に対する敬愛の念を呼び起したいものである。中国の周恩来も毛沢東もそしてアメリカのケネディもみんな自国の国旗に包まれて昇天していった。日本はそうでない。日本の偉人と言われる人でその柩に日の丸の旗をかけられた人は何人いるだろう。むかし戦死した戦友に日の丸を被し棒げ銃をやった兵隊のいたことは記憶にある。国旗を心の旗として祝祭日に戸毎飾られる日はいつであろう。祝祭日には戸毎に国旗を、国旗こそ一億国民の心のより所だ、と言いたい。それが軍国主義の復活にはつながらないことを強調したい。

（下野上　S・T）

練習に励む受講生

絵画教室の近況

絵画愛好者の強い要望により、去る六月五日に開講した絵画教室は、毎週土曜日、公民館において開催しているが、現在十五名の方が熱心に受講しており、その成果が日増しに現われている。

最初は、静物（例えば、つぼ、花等の書き方）から練習に入り、近頃では動的なもの（例えば、風景等）も書き初めており、名画家に一歩一歩と近づきつつある。

なお教室の概要は次のとおりです。

開講日　毎週土曜日、午後一時三十分から
場所　大熊町公民館
内容　洋画
会費　月五〇〇円（キャンバス、絵具油等の消耗品は自己負担）
講師　木村玄先生（大熊）佐藤功先生（富岡）

学級だより

青年月級
日時　十月六日
時間　午後七時
内容　体育活動

高令者大学
日時　十月八日
時間　午前十時
場所　大熊町公民館
内容　生活と心のふれあい

各種講座
茶道、書道（一般の部・学生の部）絵画・珠算・民謡・舞踊等を開設しておりますので受講希望者は、公民館にお申込み下さい。

みんなのひろば

米づくり 疎植をためして

川西　確（熊一区）

昨年八月、長者原の池下　広さんの試作した疎植（一尺角植え）イネを見てびっくりしました。一株四十数本に分けつしながら、茎は太く百数十の粒がみごとにみのっているのです。

今年の五月、ペーパーポット植え（空中田植え）を三年前よりやっている唐沢の山本幸一君より、トヨニシキのペーパーポット苗をゆずりうけ、一反歩程疎植をためしてみました。

施肥は機械植えと同じく、化成50kg、溶燐60kg、硅カル60kg、堆肥は前年藁全量で、四月十三日に種をまき、五月十三日に田植え（手植え）をしました。

その後の管理も、機械植えと大体同じで、分けつ肥を硫安で4kgずつ二回、重過石15kg、塩化加里5kg、つなぎ肥を硫安で4kgを二回、PKマグ20kg、ハイグリーン40kg、穂肥を化成で20kgを三回に分けて入れました。

失敗したのは、田植え一ヶ月目頃の稲の姿を見たとき、親苗が伸びすぎ、葉がしだれていたので、出来すぎと判断し、分けつを押えてしまったことです。（疎植ではこれが正常のようです。）

こんな失敗をしながらも、六月中旬まではさびしかった田んぼも出穂時には一株三〇数本になり、一穂の粒数も百以上ついたので機械植え以上の収量にいくのではないかと思っています。

田植えが一尺角植えなので楽だし、田車を押すなら縦と横に押せるし、病気に強く、管理が楽、その上収量が上るとなれば、今後研究してよい稲作の方法と考えています。問題は、なれた機械植えを、手植えにすることのようです。

今年は、唐沢部落を中心に五、六軒で試作していますので、秋の収穫をたのしみにしているところです。

花いっぱい運動

武田栄子さん

大野に住んでいる武田栄子さんは非常に忙しい人であるが、花が好きで自分の家の門前に色とりどりの花を咲かせて道行く人々に喜んでもらっている。又サルビア、アゲラタムなどの苗をたくさん作って隣近所や知人にあげ、又　駅の庭などにも植えて花一ぱい運動に尽されている。私もアゲラタムの苗をもらいうけ、紫色のかわいい花が咲いている。

（M）

地名に関心をもとう

形のある文化財は大切にされるが形のないものは無視される。地名も文化財の一つだと思う。

地名は遠い昔から使用され、今もって我々の生活の中に生きている。今度の国土調査の結果、多くの地名が消滅してしまうことは誠に残念だと思う。

私も多くは知らないが日頃聞いているものについて書いてみよう

○野上（のがん）　大きな原があった。野上原（ばら）という。その上の方にできた部落なので野上。その上の部落が上野上。下にできたのが下野上。

○大川原　余り大きくもない葉芹（はぜり）川の流域にできた部落。小川原とつけるのも面白くないので大川原。とかく昔の人は大の字は好きだったらしい。

○熊町　けものの熊ではなく、海や川や山に近く稲もでき漁や猟のできる住みよい所をくまといった。昔は久麻川とも苦麻川とも書いた。何時からか熊の字を用いだした。

○大和久　一五〇年前は無人の原野。山林、水田はなかった。真宗移民が来て相馬相馬と草木でない人間がなびいた。しかし住む所がなく大悪の地に居を構えた。時代は変って大善大和久となった。

○大野　明治初年大川原と野上が合併して大野村となった。

○館　熊にある部落名、どの辺に館があったかは判名しないが地形上相馬藩の館ではなかったことだろう。高津戸城が落城して館に逃げて来た人がここで殺されたという伝説があるので高津戸の出城だったろうか。

○五郎四郎　鎌倉時代この辺一帯は標葉氏の領地であった。この一族に標葉五郎四郎という人がいた。この人は双葉町の中田が自分の領地であった。五郎四郎部落も何かのゆかりであったらしい、なお五郎四郎は二人の名前ではなく五郎という人の四男という意味で一人の名前である。

○与惣川原（よそうかわら）　野上橋の南部落、他国者の意味で、ここに真宗移民が住みついたのでこの名がついたと思われる。

○五軒町　鉄橋近くの部落名で真宗移民（因幡）が五軒に住んでいた。もと五軒屋といったがいつころか昇格して五軒町となった。下野上北向には六軒荘といった時代があった。六軒の部落の意味である。

（松本幸一）

町民のものに

わが町にも最近種々の施設が建設されています。町営体育館、サーキットトレーニングセンター、公民館、生活改善センター等があり、今後も色々な施設が建設されていくものと思われます。

そこで全町民が、この施設を我が町民のものとして積極的に活用したいものです。

（利用している町民）

夕食時の話題

どこの家でも、夕食は一家団らんの楽しいひとときである。とかく子どもは理解できるようにというわけで話題は子ども中心になりがちである。

でも、何日に一回かは知的刺激を与える意味でその日のニュースや社会問題などを話題にするのはどうだろうか。

ある本で読んだことの一つに、故ジョン・F・ケネディ家の話である。

九人の子の母親であるローズ夫人は、夕食時をこの知的訓練の場として利用した。食堂の入口に掲示板をかけておき、その日のニュースの切抜きを張っておいたそうだ。子どもたちは、それを見てから夕食のテーブルにつき、食事をしながらそれぞれの意見を発表し合うならわしになったそうだ。話題は多方面にわたっており、小さな弟たちにはむずかし過ぎたが、しだいに兄や姉たちを見習って、はっきり自分の意見が言えるようになった。

夕食という楽しい機会をとらえて、子どもに考えさせる場をつくった点、参考にしてもよいのではなかろうか。

日本の封建的な家庭など、食事時に話するなど言われているがこんな例を知るにつけ、楽しく食事が出来、その上に子どもの教育にも効果のあるなごやかな場こそ粗しゃくにも効果あり大いに改善したいものである。

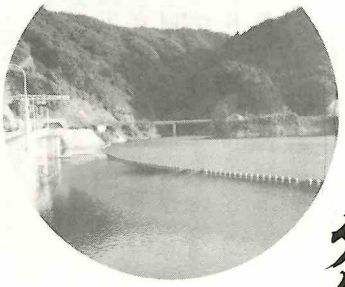
（一住民）

小さな善意

中央台老人クラブの佐々木ヤスヨさんは、八十六才という高令であるが、隣にあるユニチカ会社でできるハシギレをもらいうけ、縫い合わせて帯をつくり、クラブ員全員に分けてあげた。女の人には三本（二十人）男の人には一本（十五人）計七十五本をつくったわけである。

いただいた人は勿論、この話を聞いた人も感心している。会長鈴内喜子衛氏は次のように語っている。

佐々木さんは、元気に暮しているが、少しでも人のためにつくしたいと思い、またハシギレを焼きすてるのも勿体ないのでもう一度役にたてたいと考えて始めたのです。と



ダムの美と利用

車の便がよくなったこの頃、坂下ダムをおとずれる人は意外に多いと聞いた。

町当局のお骨折りで、桜も植えられ、やがてはすばらしいダムになろう。そしておとずれる人たちがこの景観をたたえ、自然の美にうっとりと心をやすらぐことだろう。

私はこのダムの出来たことを大へん嬉しく思う。そして大熊町の住民として、もっとよくしたいと願って止まない。今以上に…。

それで皆さんに考えてもらいたいので提案してみたい。

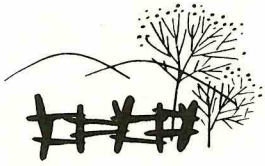
一つに、もう少しこの坂下ダムを特色のある地に出来ないものか。

二つに、多少なりとも町の利益になる方法はないものか。

このダムのおかげで農民は大へんたすかり感謝しているが、もう一歩進んだ町全体にも利益をもたらす利用法はないものだろうか。

大熊町の将来を思う時、豊かな町づくりを考える時、何かありそうな気がする。ただ眺めて帰るだけでは、ちょっと惜しい気もするのである。

（一住民）



俳句

夕霧や梨の実揺れて人の行く　鎌田　光子

池明り揺らして蛙鳴きにけり　佐久間信子

七月の葉かげに梨は光り溜め
豆の蔓天まで主柱越え行けり　高野　昭二

燈籠流しに招かれて
おくれゆく流燈に妻と加勢せり
妻と追う流燈一つ離れしを　中山　安子

昏れて尚蚕秋の匂い来る拓の村
上簇や祭太鼓のきぜはしき　菅野　ミヨ

手づくりの煮がしほめ合い新茶のむ
もろ〳〵の花咲き初めて盆近し　結城千代子

薬草を取りて土用の風に干す
菊の鉢雨よけ陽よけ場所を変え　渡辺　博之

道端に百合を供える母子無言
酷暑にも黒服多し葬列過ぐ　永井　善子

病室の窓より初夏の月あかり
園児乗るバスを待つ間の夏木立　渡辺　政美

白桔梗夜は夜の白さにて白し
朝顔や小さきもの、充つる日々　佐久間信子

馬の背を分くる夕立三粒かな
昼過ぎの雷ぐせの風冷ゆる